未来世代礼拝　小学生　(高)　礼拝説教１月①

真の父母様生涯路程①「真のお父様の誕生と少年時代」

今日のお話は「真のお父様の誕生と少年時代」です。

イエス様は十字架で亡くなりましたが、神様の国をつくるために「また来る」とおっしゃいました。神様の国をつくる為にメシヤとして地上に再び来られる方が、「再臨主」です。

その再臨主、神の子としてお生まれになったのが真のお父様です。

真のお父様は、朝鮮半島でお生まれになりました。朝鮮では、白いチョゴリを着て身を清め、「早く再臨主が来られますように」と、神様に祈り求めた国でした。

そして、真のお父様は、陰暦1920年1月6日、韓国の平安北道にある定州の村に誕生されました。そこは、自然がとても美しいところでした。山があり、川もあり、そこにはたくさんの動植物も住んでいました。

真のお父様がお生まれになる３年前から、家の周りには、不思議なことが起こっていました。金の鳥が家の庭先に飛んできては鳴いていたというのです。金の鳥は、良い知らせをもってくるという言い伝えがあるので、家の人は何か良いことが起こるに違いない、と真のお父様の誕生を心から待っていました。

また、ひいおじいさんとおじいさんが龍の夢を見ました。さらに、お母さんも、天から金の龍が降りてくる夢を見ました。これも、良い知らせでした。

こうして、真のお父様は、家族と村の人々に喜ばれながらお生まれになりました。

真のお父様のひいおじいさんの時に、定州に引っ越してきました。ひいおじいさんは、農業で暮らしをたてて、家を立派にしました。その方が、「韓国全土の人に食事を振る舞えば、家族に祝福が集まる」という家訓を作られました。

その頃、韓国には貧しい人々がたくさんいました。住む家を求めて、たくさんの人々が定州の村を通りました。「文氏の家に行けば、ただでご飯を食べさせてくれる」と、村の外にまで知れ渡っていました。

真のお父様の御家族は、文家の家訓を守りました。お母さんは、文句も言わずてきぱきとご飯を作りました。そして、訪ねて来た人が乞食であっても、訪ねてきた人の分のご飯が無ければ、まず、おじいさんが自分のご飯をさっと持っていきました。真のお父様は、よちよち歩きを始めて最初に学んだことが、人にご飯を食べさせるということでした。

ご飯を食べる時、ご飯を食べられない人がそこにいれば、胸が痛く、喉が詰まって、スプーンを持つ手が止まったというのです。このように「ために生きる」家系にお生まれになった真のお父様でした。

そのような家庭で育った真のお父様は、自然の中からいろいろなことを学ばれました。すべての自然世界は、愛の教材だと言われました。

真のお父様は、興味・関心・好奇心が旺盛で、あらゆる木に登りました。アカシヤの木にカササギが巣を作ると、毎日のように見に行きました。カササギは、韓国や日本の南の方（九州の佐賀あたり）にも見られる黒と白のきれいな鳥で、「吉鳥」と言われています。カササギが鳴くと、何か良いことや嬉しいことが起こると言われていました。

真のお父様は、カササギと友だちになりたくて、毎日巣の中の雛に会いに行きました。初めは、「カッカッカッカッ」としきりに鳴いて騒いだのですが、いつしかじっと待ってくれるようになったのです。

カササギは賢い鳥でした。風がどこから吹いてくるかを知っていて、反対側に入り口を作りました。木の枝をくわえてごちゃごちゃとからみあわせた後、雨水が入らないように巣の下と上に赤土をくわえてきて塗ります。家の軒のように雨水が一か所だけに流れるようにしているのです。さらに、雛が寒くないように綿のようなものもくわえてきて暖かく作るのです。それを見ると、親鳥が雛を愛する心があることがわかりました。

カササギと友だちになると、成長した雛を１匹ずつ巣から取り出して、尾にゴムひもをつけて飛ばしました。１匹ずつ親のもとから飛び立っていく姿を見た時、卵の時から育てた雛が自分の子供のように思えて、別れが悲しくて泣いてしまいました。真のお父様は小さい時からとても情が深かったのです。

次に、ウナギ捕りの話をしましょう。村の川や池にウナギがいました。ウナギは広い所ではなく、穴に隠れていました。頭を穴に押し込んでも、長い体を全部入れることができず、尻尾がちょこっと出ていました。その尻尾を口で噛んで捕まえたのです。夏休みには、40匹以上ウナギを捕まえて、お客様や、村の人々に分けてあげました。

真のお父様は遊びだけでなく、勉強も一生懸命にされました。その頃は筆で文字を書いていました。「書道」と言います。お父様は字が上手で、小学6年生で、先生のようにお手本の文字を書くようになりました。「五山（オサン）の家の下の子（真のお父様）は、一度決心すれば必ずやる」と、村の人々は言いました。お父様は、勉強も遊びも心に決めたら最後まで頑張りました。

また、お父様は、負けず嫌いで、悪なるものに対しては絶対許さないという性質ももっておられました。村で弱い者がいじめられると、相手が大きくても強くてもかまわず向かっていったというのです。ある時、3歳年上の子に相撲で負けたことがあり、くやしくて、アカシヤの木の皮がはがれるほど木にぶつかって稽古をしました。そして、6か月後にはその子に勝ちました。

どうですか、皆さんも子供の頃のお父様にどこか似ているところがあるのではないでしょうか？真のお父様は、自分の良心にとても素直な方です。皆さんも、真のお父様のように、人や自然を愛し、神様が与えて下さった環境から沢山のことを学び、大きく成長していきましょう！